

所属 交流文化学部		職名 教授	氏名 太田 浩司	学位 コミュニケーション博士	兼任している研究科 グローバルカルチャー・コミュニケーション研究科
研究分野 心理学、社会学、言語学			研究分野のキーワード 集団、対人関係、文化、態度と行動、社会言語学		
学歴					
1985年03月	南山大学 外国語学部 英米学科				
1993年12月	カリフォルニア州立大学 フラトン校 スピーチコミュニケーション研究科 修士課程				
2001年09月	カリフォルニア大学 サンタバーバラ校 コミュニケーション研究科 博士課程				
職歴					
1985年04月	愛知県立東海商業高等学校 教諭				
1996年10月	名古屋大学 留学生センター 助教授				
2000年04月	愛知淑徳大学 現代社会学部 助教授				
2010年04月	愛知淑徳大学 交流文化学部 教授				
研究活動					
著書(CD・DVD等を含む)・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ記入)	該当箇所・該当頁数
著書(CD・DVD等を含む)					
学術論文					
Intergenerational communication satisfaction among Japanese Americans through communication accommodation.	共著	2021年06月	Routledge Journal of Multilingual and Multicultural Development doi.org/10.1080/01434632.2021.1938088	Omori, Kikuko, Stark, K. Rachel, Hiroshi Ota	共同研究につき本人担当部分抽出不可能
When Age and Race/Ethnicity Salience Meet: Group Salience and Its Association with Communicative Behaviour, and Intergenerational Communication Satisfaction among Japanese Americans	共著	2022年03月	Routledge Journal of Intercultural Communication Research doi.org/10.1080/17475759.2022.2054849	Omori, Kikuko, Stark, K. Rachel, Hiroshi Ota	共同研究につき本人担当部分抽出不可能
When age and race/ethnicity salience meet: Group salience and its association with communicative behaviour, and intergenerational communication satisfaction among Japanese Americans.	共著	2022年03月	Journal of Intercultural Communication Research 52 2	Kikuko Omori・Rachel Keiko Stark	129頁～147頁
Japan's struggle to improve gender equality	共著	2023年06月	John Benjamins Publishing Company Journal of Asian Pacific Communication 33 1	Omori, Kikuko・Ota, Hiroshi	1頁～11頁
学会発表					
作品・制作等					
その他業績					
学会等における主な活動					
受賞					
2020年10月	Top Paper Award		106th NCA convention Japan US Communication Associationでの受賞。 論文のタイトルは"Signposts at the Crossroads where Age and		

		Culture Meet: Group Salience and Intergenerational Communication Satisfaction among Japanese Americans"	
所属学会			
1992年04月 ~ 2021年06月	International Communication Association	2005年07月 ~ 2007年05月 Intergroup Communication分科会長 2002年07月 ~ 2010年06月 アジア代表理事	
1992年11月 ~ 2015年10月	National Communication Association		
1996年07月 ~ 2019年06月	International Association of Language and Social Psychology		
2012年04月 ~ 現在	日本コミュニケーション学会		
2022年09月 ~ 現在	The Society for the Psychological Studies of Social Issues		
社会活動			
2015年09月01日 ~ 現在	Journal of Asian Pacific Communication 編集委員		
2020年09月01日 ~ 2022年08月31日	Communication Studies 編集委員		
2021年01月01日 ~ 2021年12月31日	Journal of Social and Personal Relationships 諮問編集委員		
2024年07月 ~ 現在	東海学生バスケット連盟 競技委員		
教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)			
体験学習の導入	2001年04月 ~ 現在	講義においてシミュレーション、ロールプレーに加えて車椅子による学内探索を行い、またコンピュータを使用した実習を取り入れ、一方的な受身の授業にならないようにした。	
実習をともなうコミュニケーションスキルの向上	2014年04月 ~ 現在	コミュニケーション論の授業において、自らのコミュニケーション行動に意識を向け、スキルの向上につながるような実習（エクササイズ）を多用して効果を上げている。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
課外活動（バスケットボール部、男子・女子）コーチ	2003年09月 ~ 現在	基本を徹底的に重視して、学生らしくひたむきに、全員でプレーする姿勢を作る。	
5 大学運営			
交流文化学部長	2018年04月 ~ 2024年03月		
交流文化学部 ランゲージ専攻主任	2024年04月 ~ 現在		
交流文化学部長	2026年04月 ~ 現在		
Ⅴ 資格・免許、特許等			
資格・免許			
特許等			